

2019年度（令和元年度）災害調査報告書

（令和元年8月豪雨・台風15号・19号に係る調査報告書）

令和3年2月

一般社団法人環境衛生施設維持管理業協会
技術部会 研究グループ

目 次

令和元年8月豪雨の概要	3	ライフライン被害の状況（位置情報）	19
令和元年房総半島台風（台風15号）の概要	4	安否確認方法（複数回答有）	20
令和元年東日本台風（台風19号）の概要	5	災害由来廃棄物の受入れ（１）～（２）	21-22
調査対象事業所	6	災害由来廃棄物の受入れ（位置情報）	23
調査対象事業所（位置情報）	7	災害ごみ処理関係（１）～（３）	24-26
災害の分類	8	運転計画の変更	27
8月豪雨（位置情報）	9	本社、他事業所からの支援	28
台風15号（位置情報）	10	客先からの協力要請	29
台風19号（位置情報）	11	平時の備えの評価（１）～（２）	30-31
建物被害の状況	12	あって助かったこと（１）～（２）	32-33
建物被害の状況（位置情報）	13	なくて困ったこと（１）～（２）	34-35
設備被害の状況	14	言っておきたいこと（１）～（３）	36-38
設備被害の状況（位置情報）	15	その他・自由記入（１）～（４）	39-42
搬入経路被害の状況	16	災害廃棄物対応の協定	43
搬入経路被害の状況（位置情報）	17	BCPの作成状況	44
ライフライン被害の状況	18	災害廃棄物処理計画の策定	45

令和元年8月豪雨の概要（気象庁 災害をもたらした気象事例 令和元年9月3日 より）

前線による大雨（2019年8月26日～8月29日）

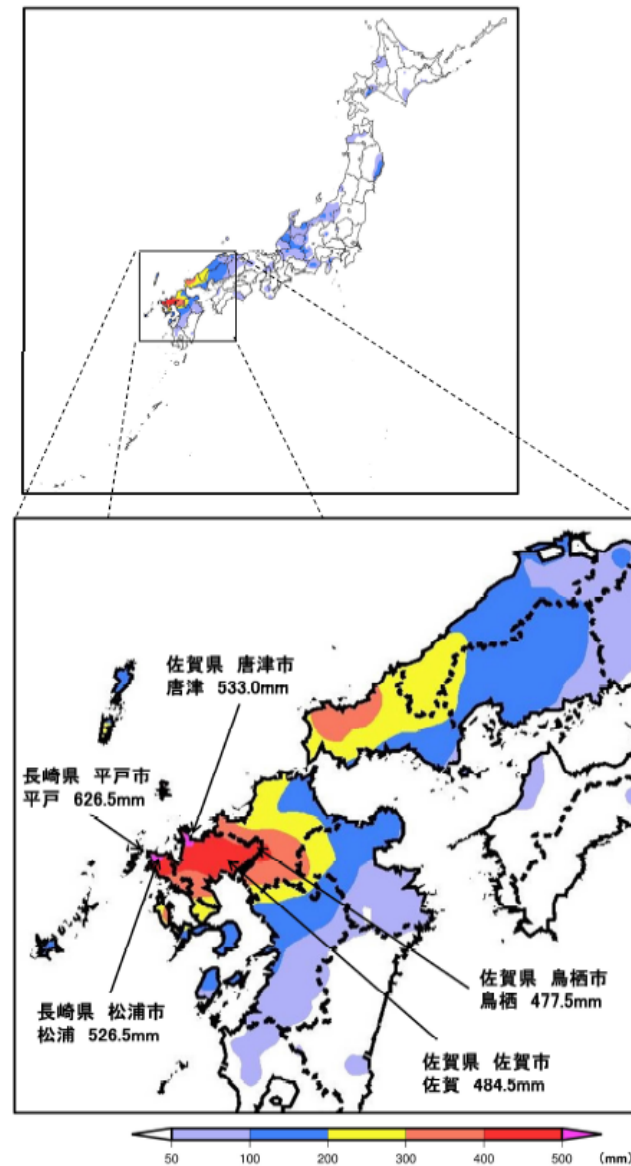
日本付近では、8月26日は、前線が華中から九州南部を通して日本の南へのびていた。8月27日には前線が対馬海峡付近から東日本に北上し、前線上に低気圧が発生して日本海を北東へ進んだ。その後8月29日にかけて前線是对馬海峡付近から東日本に停滞した。

この前線に向かって暖かく非常に湿った空気が流れ込んだ影響等で、東シナ海から九州北部地方にかけて発達した雨雲が次々と発生し、線状降水帯が形成・維持された。このため、九州北部地方では、8月26日から8月29日までの総降水量が長崎県平戸市平戸で626.5 ミリ、佐賀県唐津市唐津で533.0 ミリに達するなど、8月の月降水量の平年値の2倍を超える大雨となったところがあった。特に、福岡県久留米市耳納山、佐賀県佐賀市佐賀、佐賀県白石町白石で3時間及び6時間降水量が観測史上1位の値を更新するなど、佐賀県を中心にこれまでの観測記録を更新する記録的な大雨となった。この大雨について8月28日5時50分に佐賀県、福岡県、長崎県の市町村に大雨特別警報を発表し、最大級の警戒を呼びかけた。

（同日14時55分にすべて解除）

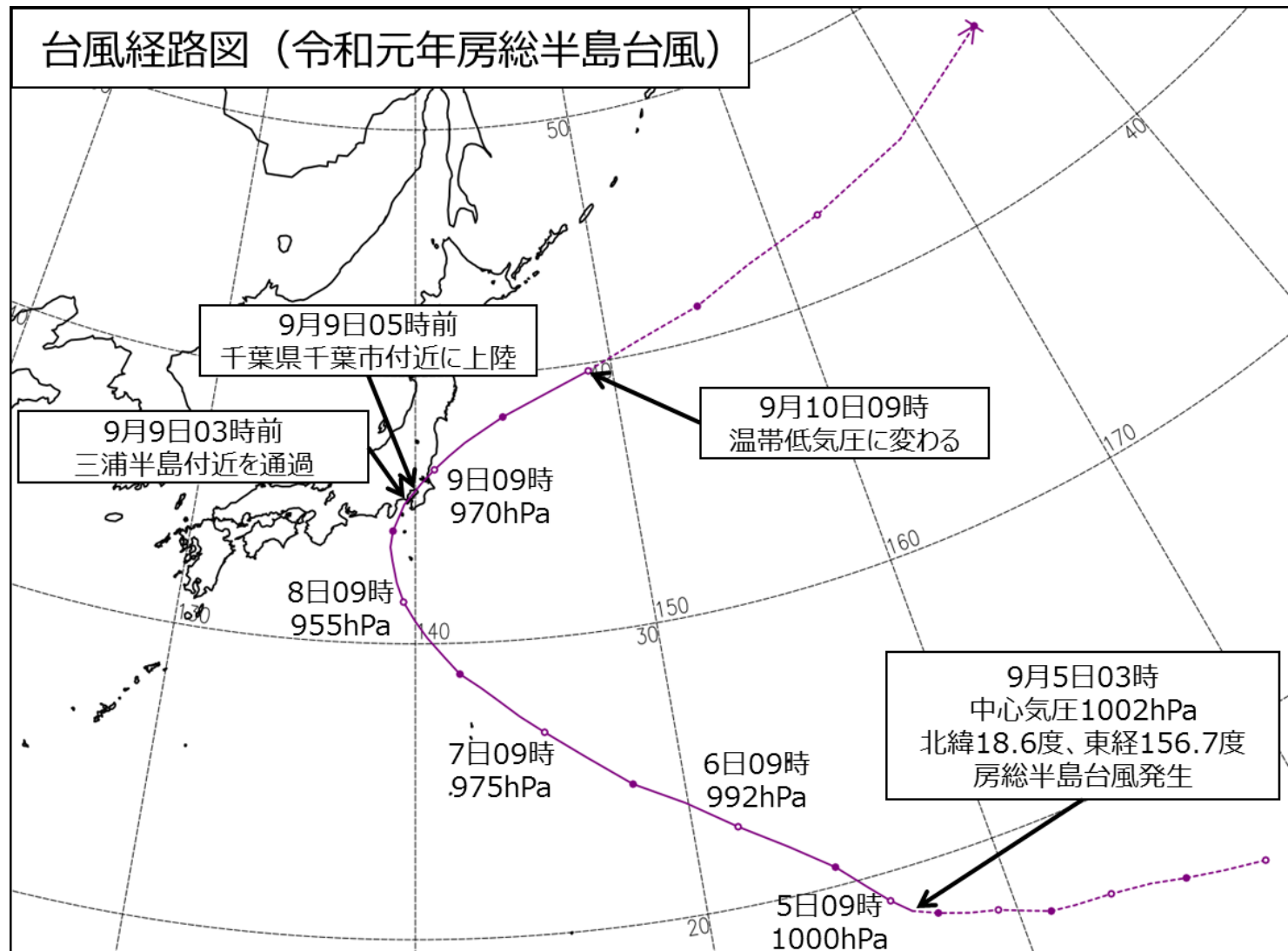
この大雨の影響で、河川の氾濫、浸水害、土砂災害が発生し、九州北部地方を中心に人的被害や住家被害、農地被害があったほか、停電や断水等ライフラインへの被害や鉄道の運休等の交通障害が発生した。また、西日本から東日本の広い範囲で大気の状態が非常に不安定となり、東海地方では突風害が発生したところがあった。

期間降水量分布図（8月26日0時～8月29日24時）



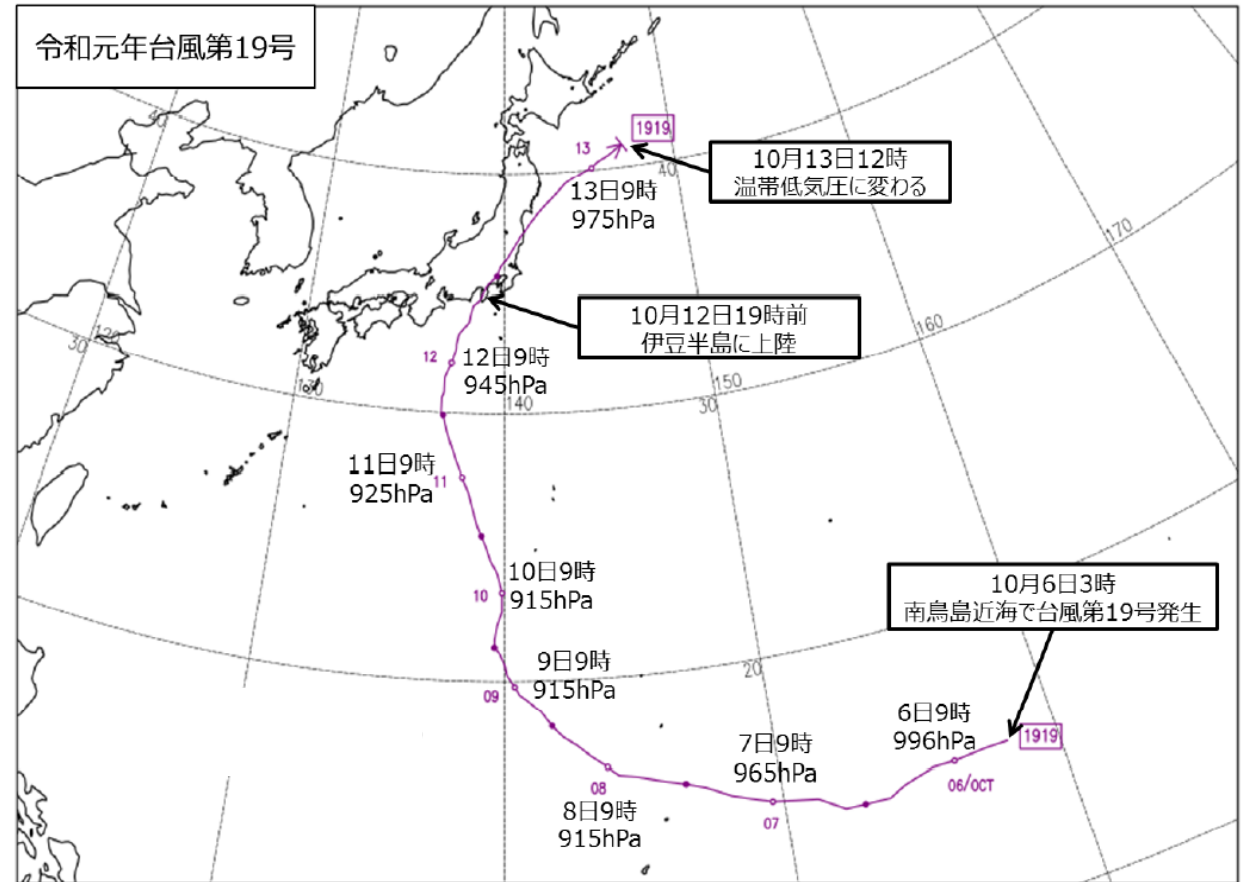
令和元年房総半島台風（台風15号）の概要（気象庁 災害時気象報告 令和2年3月24日 より）

台風15号が9月8日に伊豆諸島に接近した後、9日03時前に三浦半島付近を通過して、9日05時前に強い勢力で千葉市付近に上陸した。この台風の接近・通過に伴い、関東地方南部や伊豆諸島を中心に暴風、大雨となった。東京都神津島で最大風速43.4メートル、千葉県千葉で35.9メートルを観測するなど6地点で最大風速30メートル以上の猛烈な風を観測し、千葉県を中心に19地点で最大風速の観測史上1位の記録を更新した。この暴風の影響で、千葉県では電柱の倒壊や倒木が相次ぎ、最大約934,900戸で停電が発生したほか、大雨の影響で浸水害や土砂災害が発生した。



令和元年東日本台風（台風19号）の概要（気象庁 災害をもたらした気象事例 令和元年10月15日 より）

台風19号は、12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸し、その後、関東地方を通過した。台風19号の接近・通過に伴い、広い範囲で大雨、暴風、高波、高潮となった。雨については、10日から13日までの総降水量が、神奈川県箱根で1000ミリに達し、東日本を中心に17地点で500ミリを超えた。特に静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方の多くの地点で3、6、12、24時間降水量の観測史上1位の値を更新するなど記録的な大雨となった。この大雨について、10月12日15時30分から順次、静岡県、神奈川県、東京都、埼玉県、群馬県、山梨県、長野県、茨城県、栃木県、新潟県、福島県、宮城県、岩手県の1都12県に大雨特別警報を発表し、最大級の警戒を呼びかけた（13日8時40分までにすべて解除）。風については、東京都江戸川臨海で最大瞬間風速43.8メートルとなり観測史上1位を更新したほか、関東地方の7か所で最大瞬間風速40メートルを超えた。また、台風の接近に伴って大気の状態が非常に不安定となり、千葉県市原市では竜巻と推定される突風が発生した。



この大雨の影響で、広い範囲で河川の氾濫が相次いだほか、土砂災害や浸水害が発生した。これら大雨による災害及び暴風等により、人的被害や住家被害、電気・水道・道路・鉄道施設等のライフラインへの被害が発生した。また、航空機や鉄道の運休等の交通障害が発生した。

調査対象事業所

施設 No	焼却 ガス化	粗大 リサイクル	RDF 炭化	し尿	浸出 水
1	○	○			
2		○			
3	○	○			
4	○				
5	○	○			
6	○				
7	○	○			
8	○				
9	○	○			
10	○				
11	○				
12	○灰溶融				
13	○	○			
14	○	○			
15	○				
16	○灰溶融				
17	○	○			
18	○	○			
19	○	○			
20	○	○			
21		○			
22		○			
23	○灰溶融	○			
24	○灰溶融	○			
25	○	○			

施設 No	焼却 ガス化	粗大 リサイクル	RDF 炭化	し尿	浸出 水
26	○灰溶融				
27	○				
28	○				
29	○				
30	○	○			
31	○	○			
32	○	○			
33	○				
34	○				
35	○	○			
36	○	○			
37	○	○			
38	○	○			
39	○	○			
40	○	○			
41	○	○			
42	○	○			
43	○				
44	○	○			
45	○	○			
46	○	○			
47	○	○			
48	○	○			
49	○	○			
50	○	○			

施設 No	焼却 ガス化	粗大 リサイクル	RDF 炭化	し尿	浸出 水
51	○				
52	○	○			
53	○	○			○
54	○	○			
55	○	○			
56	○				
57		○			
58	○				
59	○				
60	○	○			
61	○	○			
62	○				
63	○				
64	○灰溶融				
65	○	○			
66	○	○			
67	○灰溶融		○		
68	○	○			
69	○	○			
70	○	○			
71	○	○			
72				○	
73					○
74					○
75				○	

施設 No	焼却 ガス化	粗大 リサイクル	RDF 炭化	し尿	浸出 水
76				○	
77				○	
78					○
79				○	
80				○	
81				○	
82				○	
83				○	
84				○	

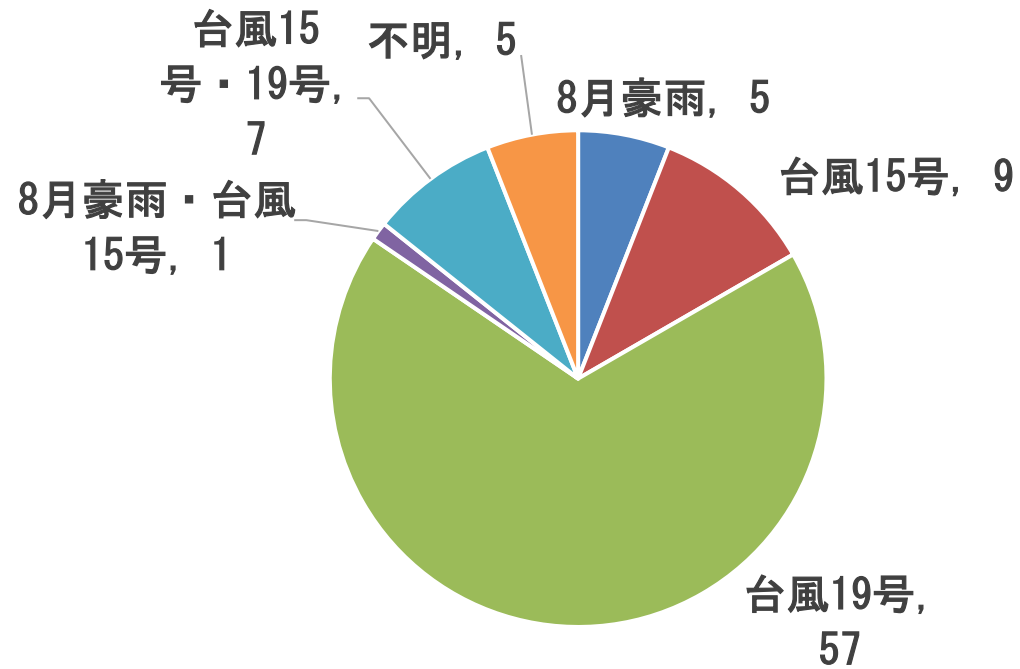
調査対象事業所（位置情報）

アンケート回答のあった事業所
全84施設

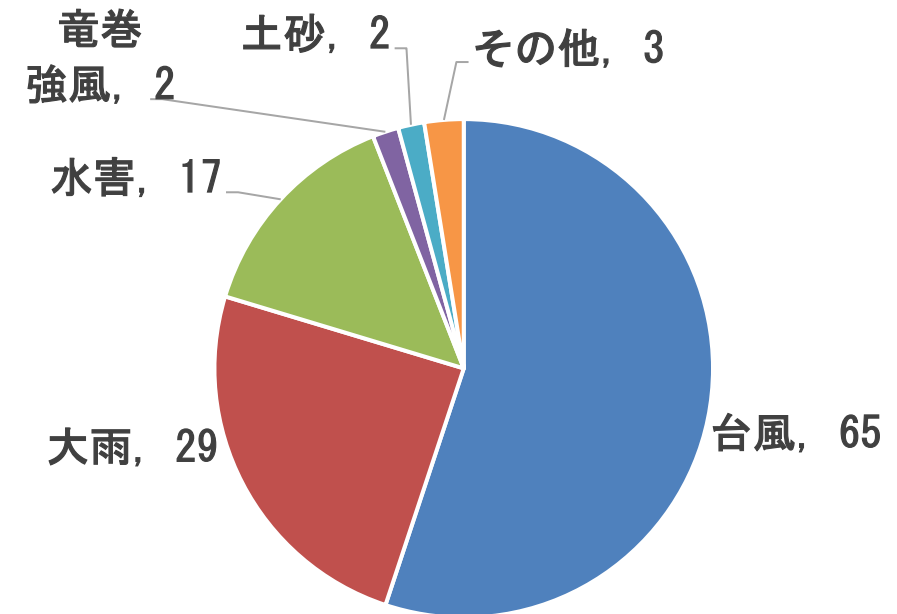


災害の分類

事業所の災害名称



事業所の主たる災害内訳
(複数回答)



8月豪雨（位置情報）



8月豪雨



台風15号（位置情報）

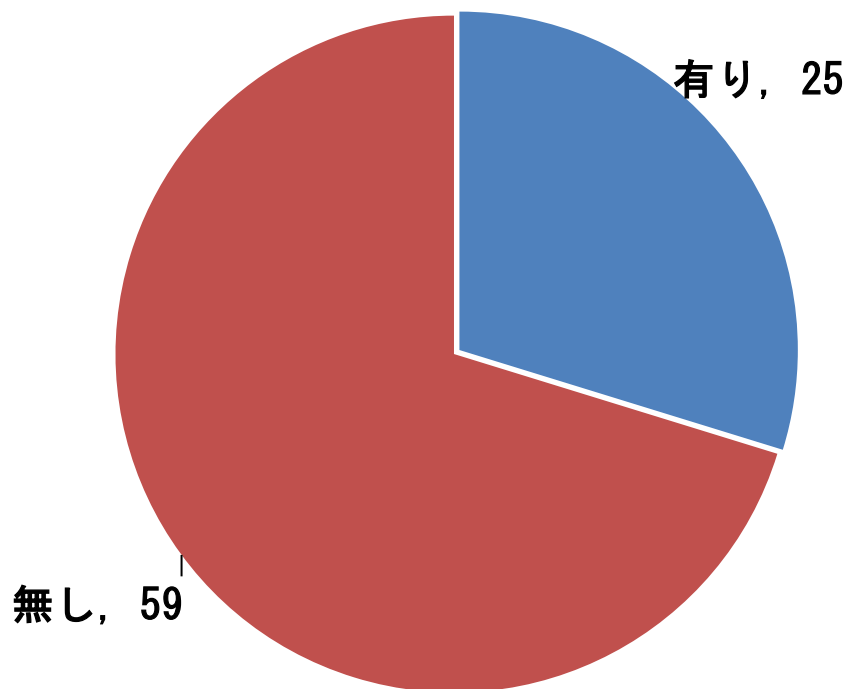


台風15号





建物被害の状況



被害内容

- ・ 屋上防水シート、屋外紙ヤード天井剥がれ、倒木、外灯破損等
- ・ 強風により屋上雨水配管破損、防爆口破損
- ・ 倒木によるフェンス破損
- ・ 雨漏り
- ・ 室外機・天窓
- ・ シャッター破損、天窓破損
- ・ スレート屋根材の一部が剥がれた
- ・ 地下室が約40 c m浸水
- ・ 浸水（1階 50cm）
- ・ 灰固化室の屋根損傷
- ・ 雨漏りと一部雨どい破損
- ・ 倒木による施設外周フェンス壊れ
- ・ ごみピットトップライト、屋上防水シート
- ・ 扉、ひさし、屋根等
- ・ 各ブロワ扉損傷、プレハブ損傷
- ・ プラットホームトップライト損傷
- ・ 屋外水銀灯倒壊
- ・ 建物外壁パネル1枚破損
- ・ 雨漏り・樋の落下

建物被害の状況（位置情報）



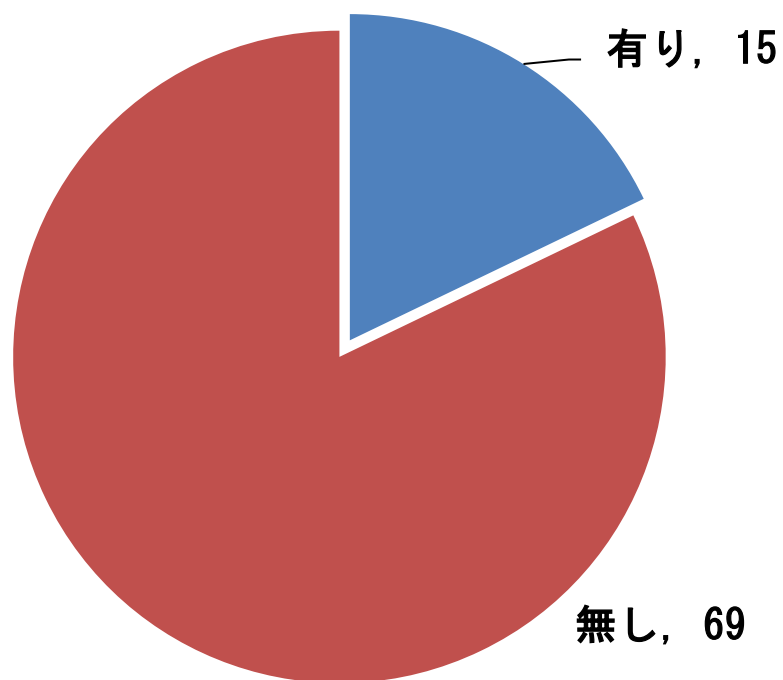
有り



無し



設備被害の状況



被害の内容

- 地下電灯盤、シャッター、PC：雨漏りによる漏電
- 空調設備：雨漏りによる動力盤漏電
- シャッター、照明器具：破損
- その他ごみ精選機：漏電
- 発電機・排水設備：浸水
- ダストピット、ダスト固化室：浸水
- 灰コンベヤ、ポンプ類：浸水による水没
- 灰固化室シャッター：漏電
- 機器冷却塔：ダクト2本損傷
- MLC：強風により建屋内に雨水侵入しMLCエラー
- 炉室側採光窓ガラス：強風飛来物によるガラス割れ
- アンモニア貯槽付きの真空破壊弁：アンモニアガス漏洩
- 調整池用ポンプ制御盤：浸水により運転停止
- 計装設備シーケンサー：復電時に入出力カード故障
- 低濃度臭気ファン：インバーター故障

設備被害の状況（位置情報）



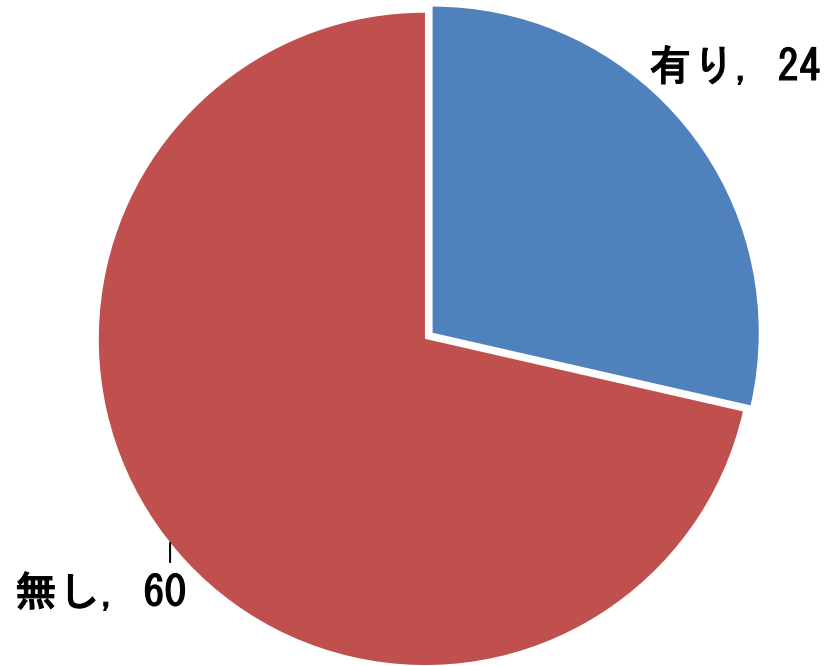
有り



無し



搬入経路被害の状況



被害内容

- ・ 倒木、資源カゴ散乱による通行不可
- ・ 場内、倒木による通行不可
- ・ 看板等の飛散による通行不可
- ・ 県内浸水により道路被害
- ・ 周囲水田冠水、一部通行止め
- ・ 川の氾濫により道路が寸断
- ・ 倒木による通行止め
- ・ 道路冠水による通行止め
- ・ 倒木による経路寸断
- ・ 施設周囲の冠水による通行止め
- ・ 土砂崩れによる通行止め
- ・ 構内の搬入経路上の土砂による通行止め
- ・ その他

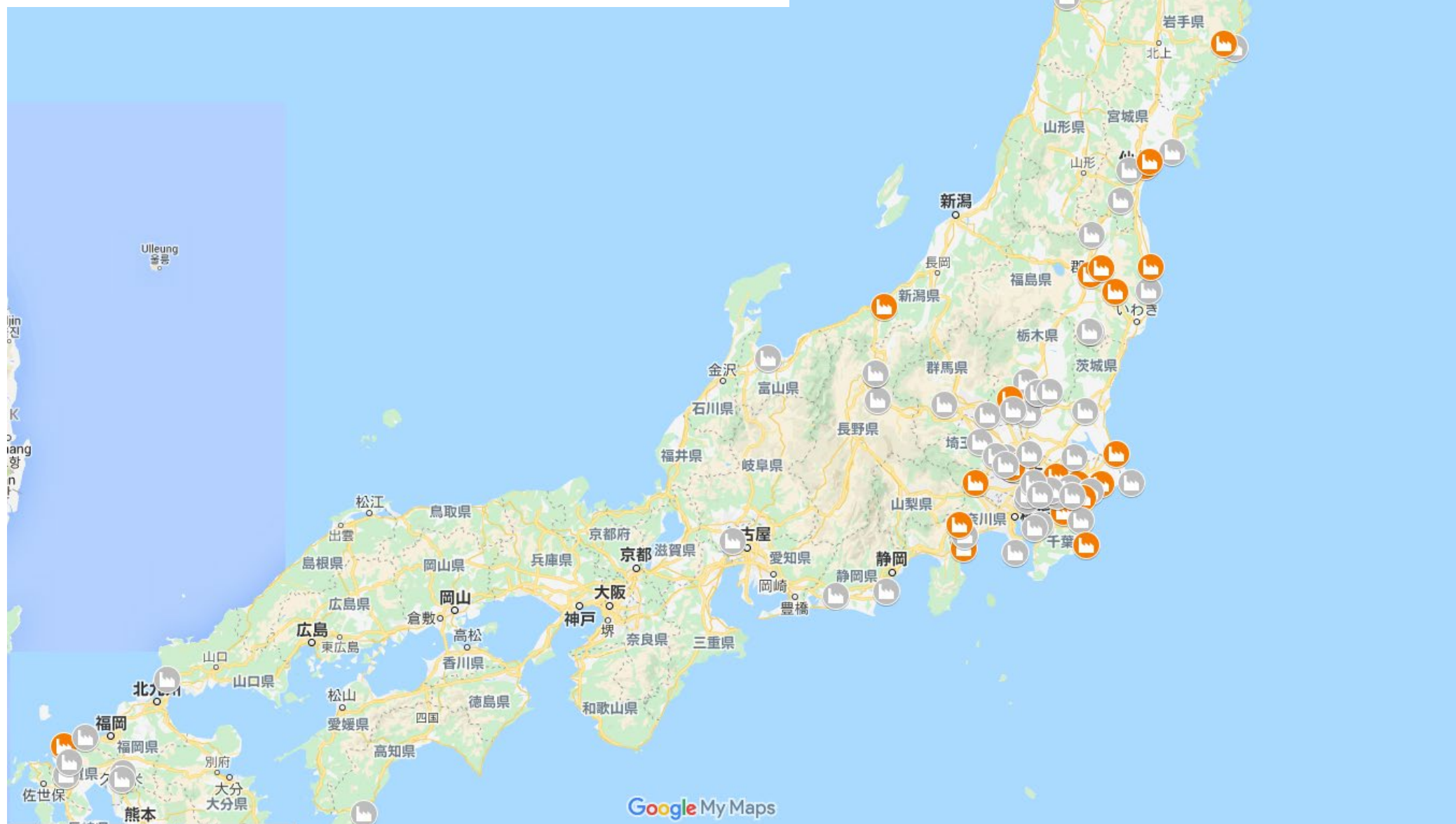
搬入経路被害の状況（位置情報）



有り

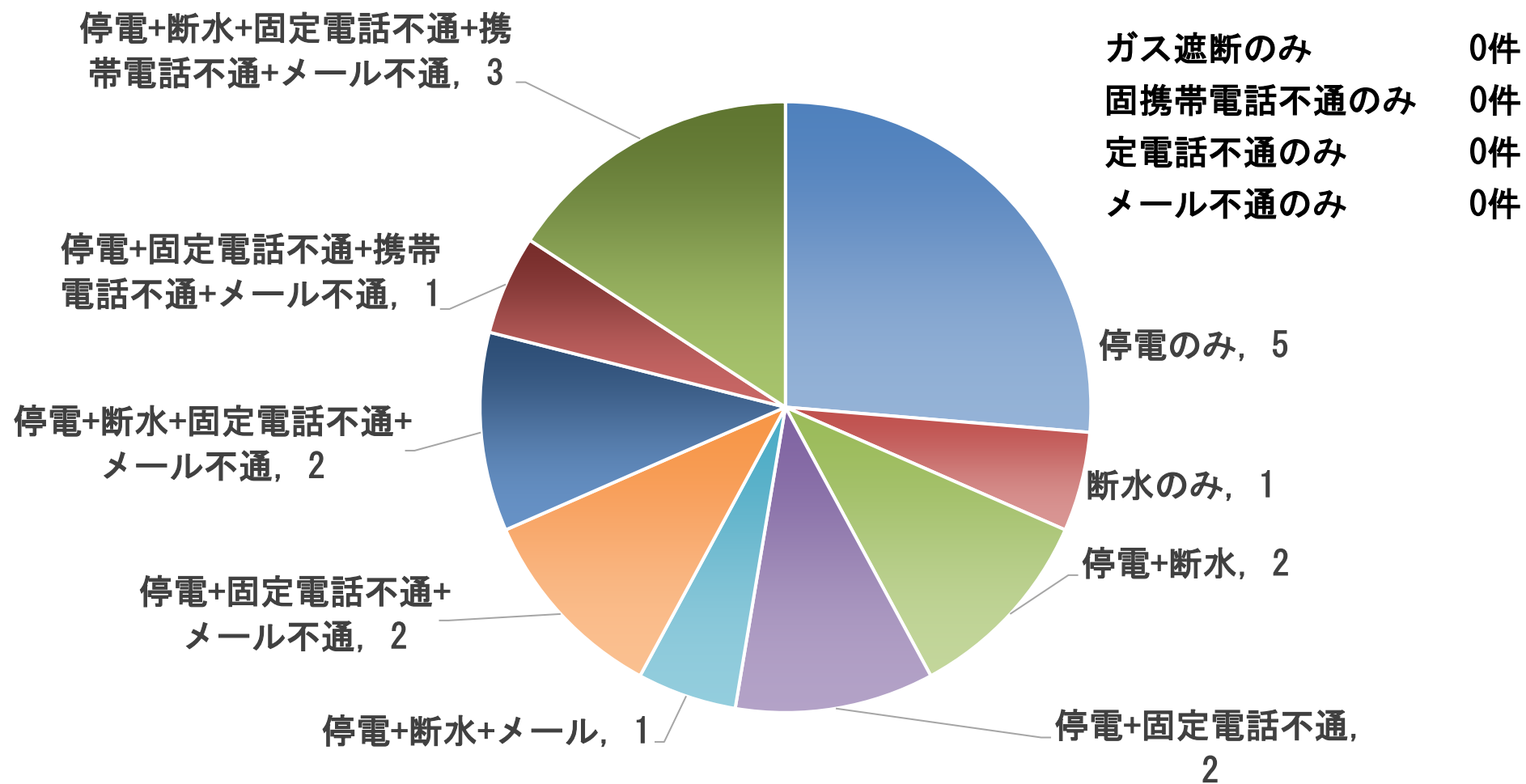


無し



ライフライン被害の状況

ライフライン被害の有無
被害あり19施設/被害なし65施設



ライフライン被害の状況（位置情報）



停電



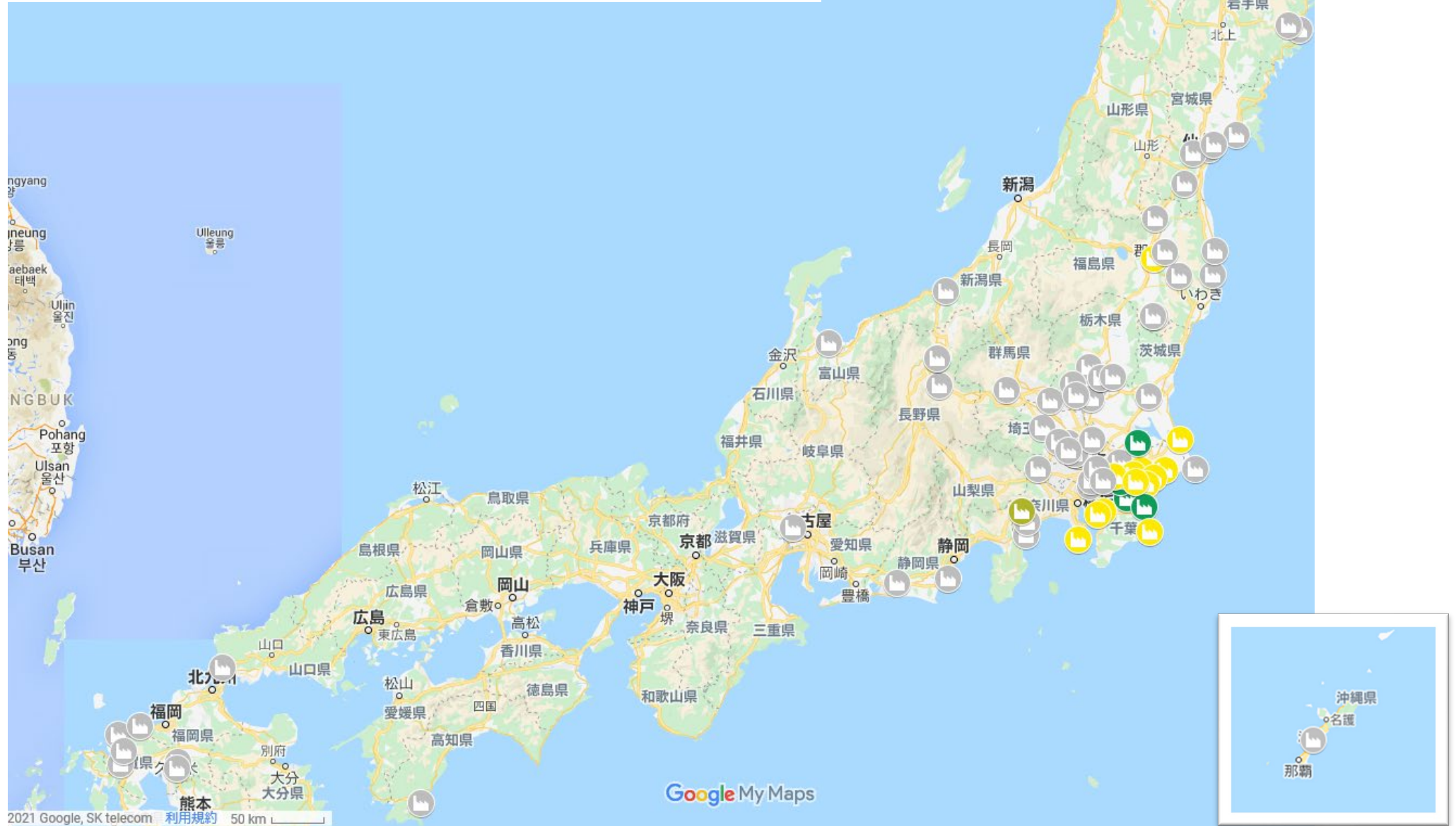
断水



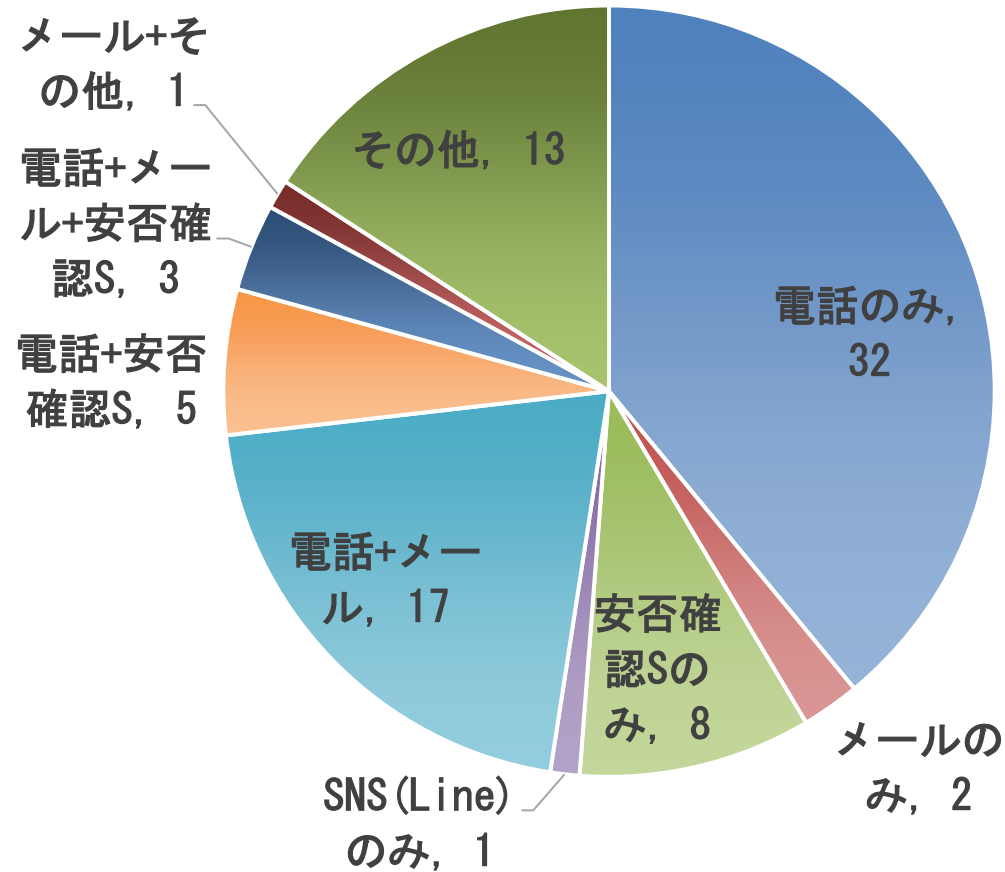
複合



被害なし



安否確認方法 （複数回答有）



電話のみが32件（38%）で最も多く、
複合的に安否確認を実施しているケースは26件
（31%）となっている。

その他が13件とあるのは
出勤状態での安否確認以外に、安否確認を行う必要
がないと判断したケースが含まれているためで
ある。

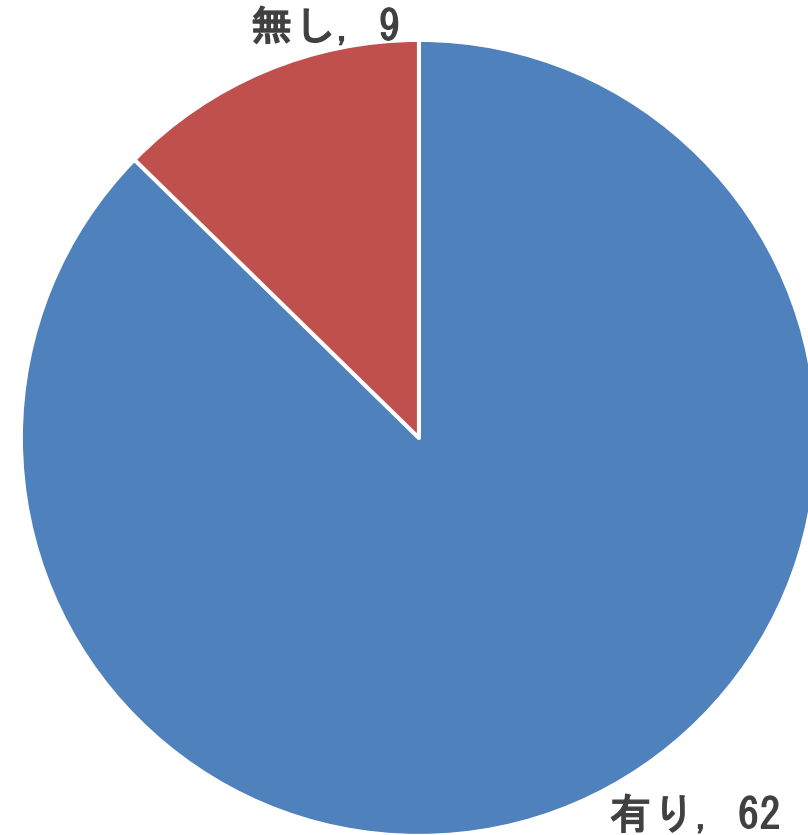
（注）安否確認S：「安否確認システム」を示す

災害由来廃棄物の受入れ（１）

ごみ焼却施設および破碎リサイクル施設

災害由来廃棄物の受け入れ有りと回答した62施設の
受け入れ方法の内訳

- ・ ピット直投 29施設
- ・ 選別後ピット投入 24施設
- ・ 選別後投入とピット直投併用 2施設
- ・ 仮置き場にて粗破碎後ピット搬入 1施設
- ・ ピット直投と仮置き併用 1施設
- ・ 仮置き 3施設
- ・ 災害ごみ保管場所（市町村の仮置き場
含む）にて選別後受入 2施設
- ・ 選別後、処理困難物は場外搬出 1施設

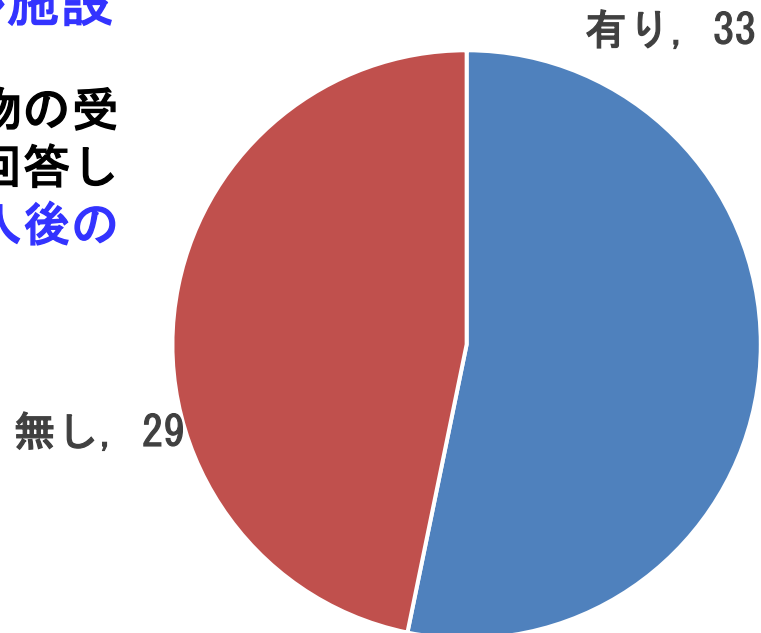


災害由来廃棄物の受入れ（２）

22

ごみ焼却施設および破 砕リサイクル施設

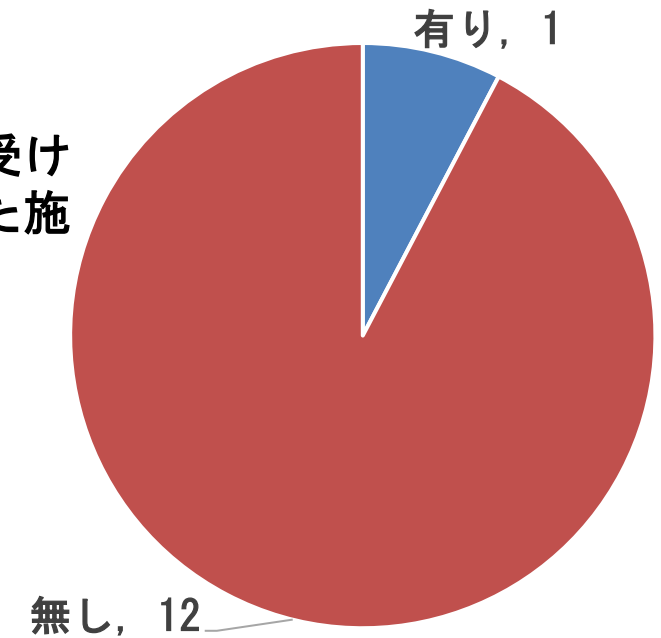
災害由来廃棄物の受
け入れ有りと回答し
た62施設の受入後の
分別の有無



し尿処理施設及び浸出水 処理施設

災害由来廃棄物の受け
入れありと回答した施
設の受け入れ方法

・バキューム車



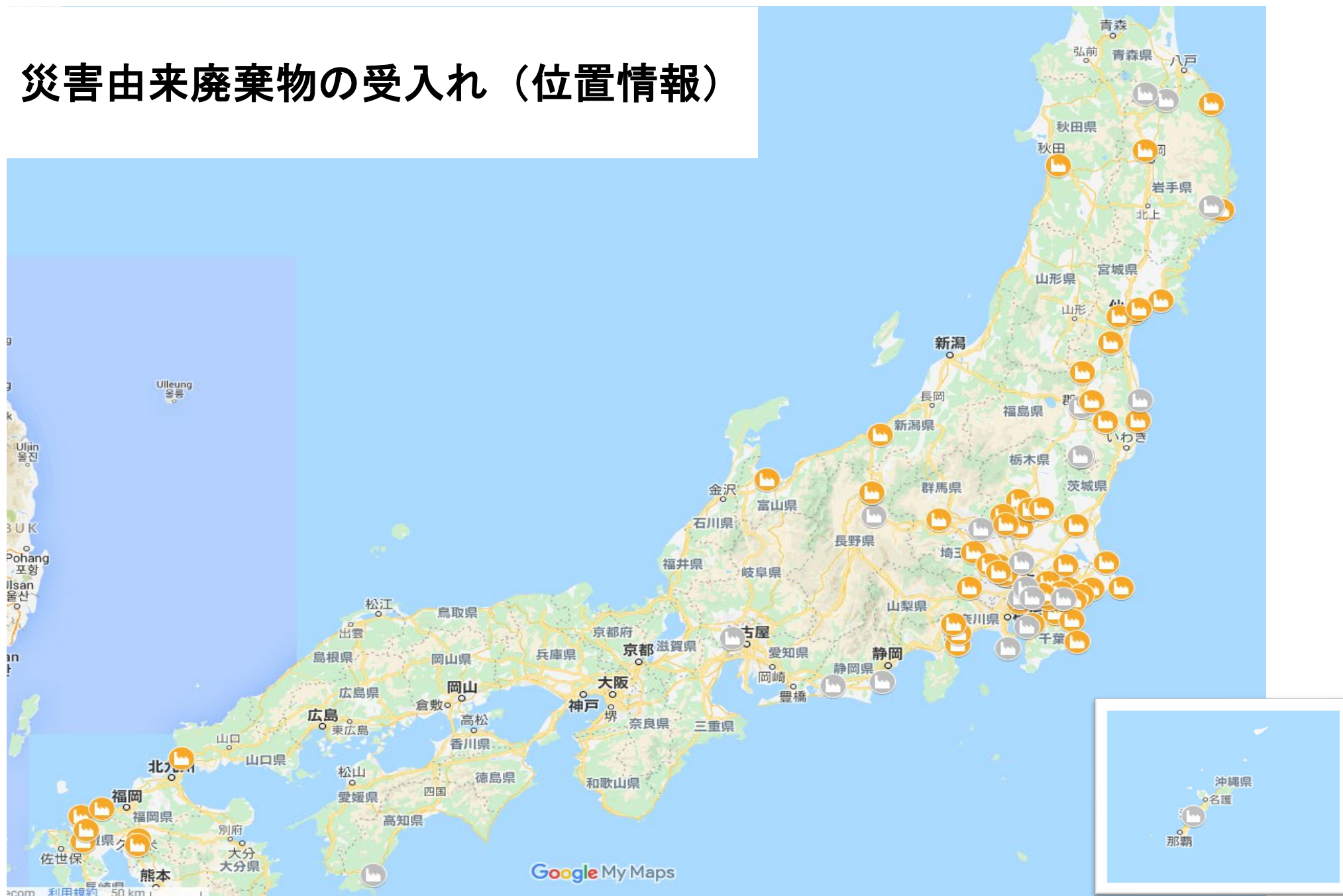
災害由来廃棄物の受入れ（位置情報）



有り

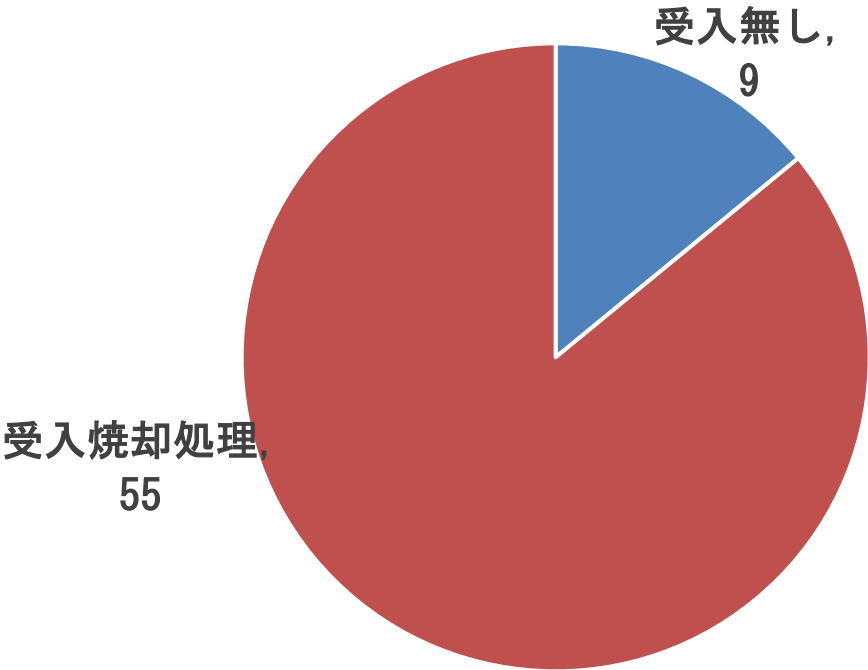


無し

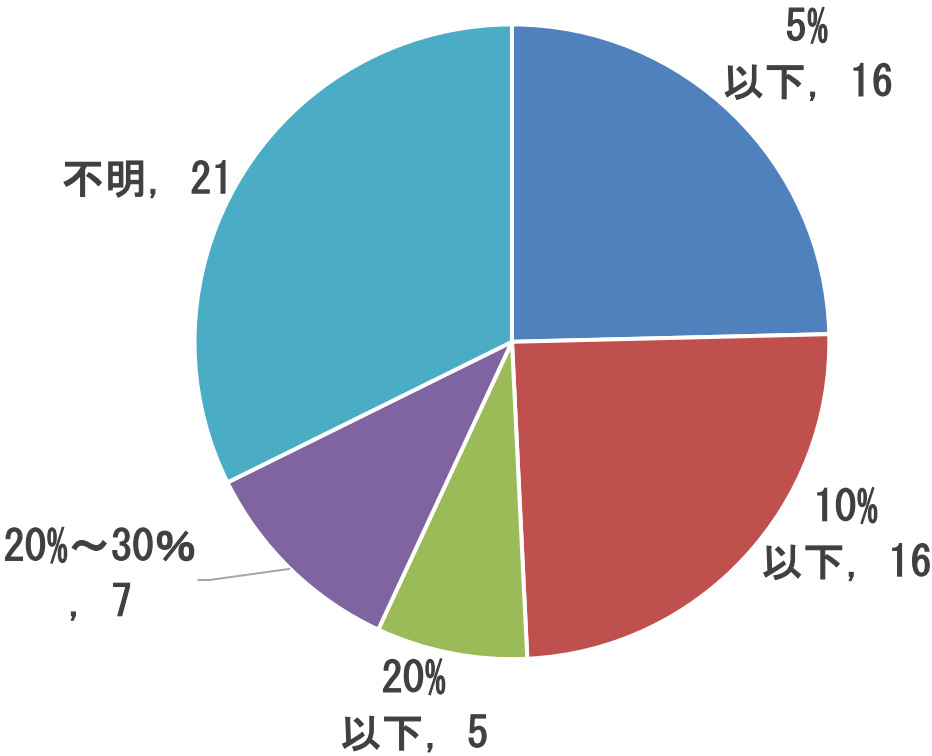


災害ごみ処理関係（１）

ごみ焼却処理施設 災害ごみ処理



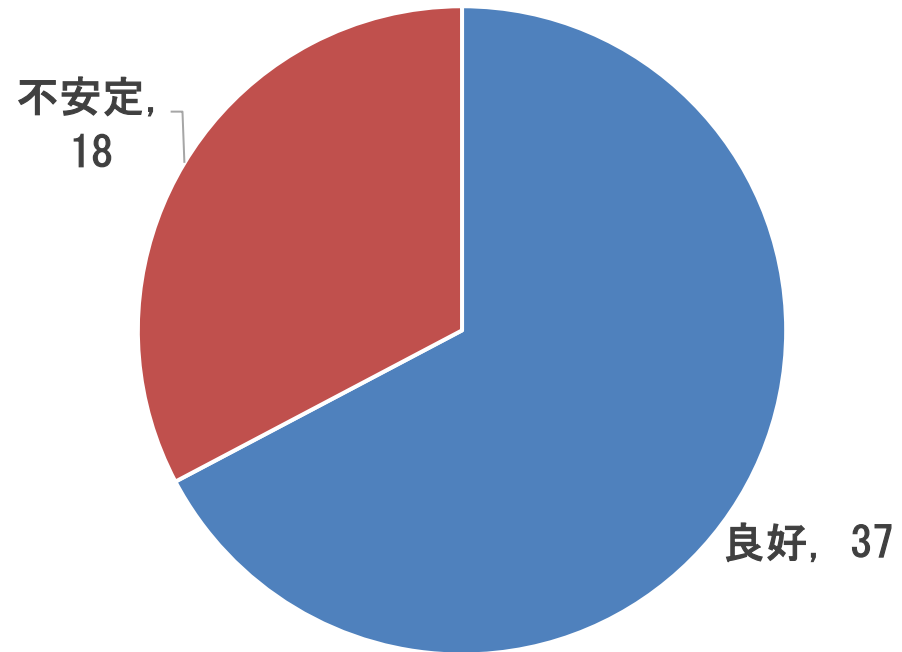
災害ごみ 混合比



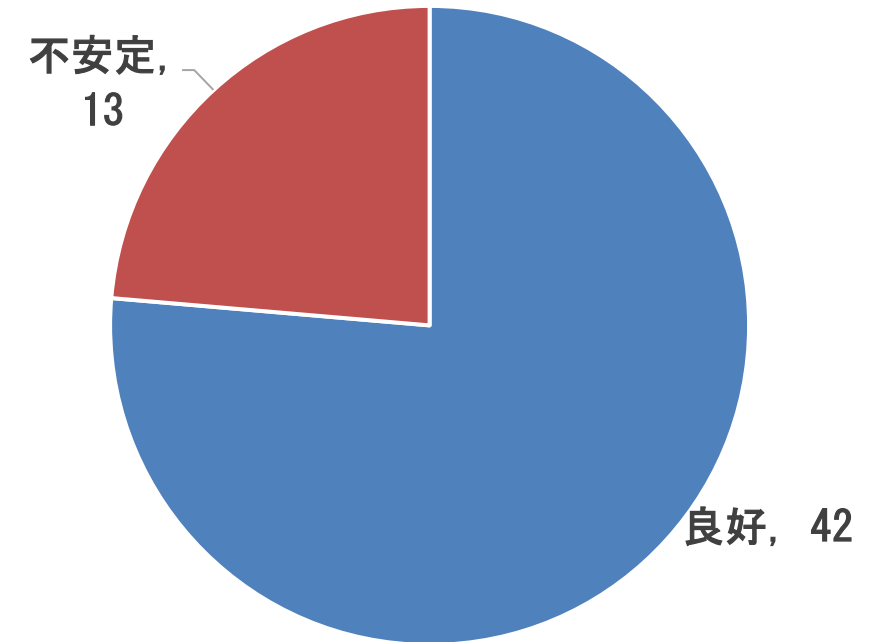
災害ごみ処理関係（２）

25

災害ごみ混合処理時 処理状況



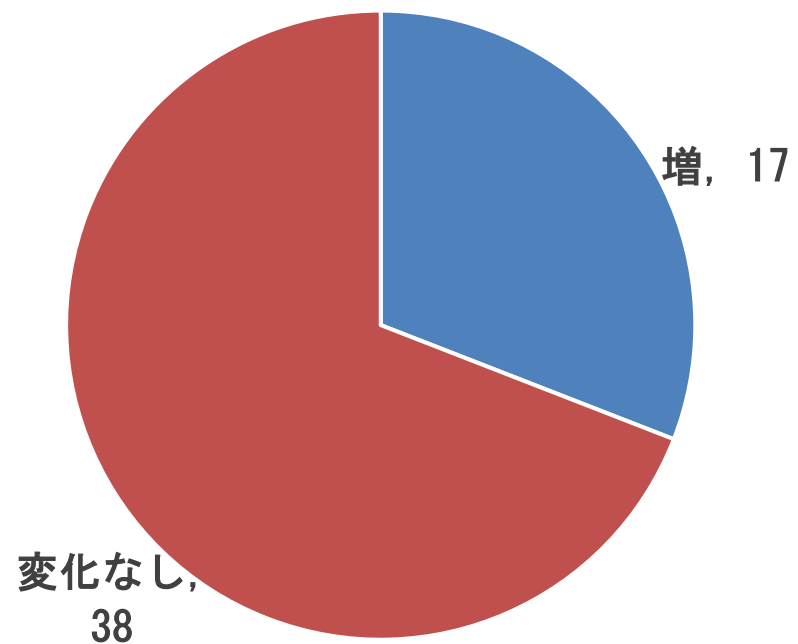
災害ごみ混合処理時公害防止条件



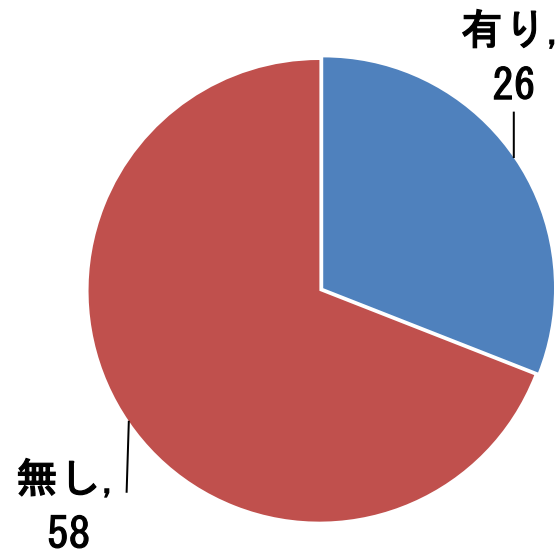
災害ごみ処理関係（3）

26

災害ごみ混合処理時薬品使用状況



運転計画の変更



(破碎・リサイクル施設)

- ・ 運転日数増と木材の仮設破碎機運転（増員・シフト変更あり）
- ・ 運転時間延長（シフト変更有、残業、早出、休出）
- ・ 運転日数増（シフト変更有、休日出勤）
- ・ 運転時間延長（シフト変更なし）

(焼却処理施設)

- ・ 運転時間延長16h/日→延長（シフト変更なし）
- ・ 運転時間延長8h/日→延長（シフト変更なし）
- ・ 運転時間延長16h/日→24h/日（シフト変更有）
- ・ 運転時間変更（シフト変更有、休日出勤）（焼却、破碎処理）
- ・ 運転計画、整備計画変更（シフト変更なし）
- ・ 休炉整備期間の圧縮（シフト変更なし）
- ・ 稼働時間増、工事日程の変更（シフト変更なし）（焼却、破碎処理）
- ・ 操業日数増、掘り起し及び農林業系廃棄物の受け入れを休止

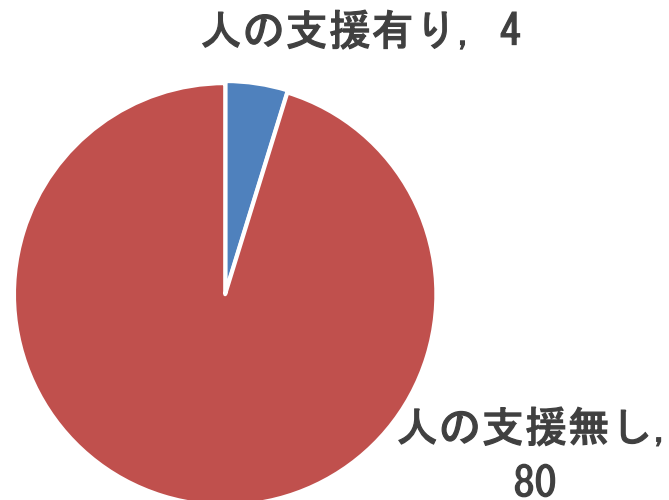
(シフト変更有、休日出勤)

- ・ 破碎機運転時間延長、焼却炉3炉運転（通常2炉）（シフト変更なし）
- ・ 焼却は1炉追加・3炉運転焼却は年末年始運転継続、粗大は運転時間延長、祝日も運転（シフト変更なし）
- ・ 処理量増（90%操業）（シフト変更なし）
- ・ 予定より早く1炉立上げ（シフト変更なし）
- ・ 焼却炉週末3炉運転（シフト変更なし）

(浸出水処理施設)

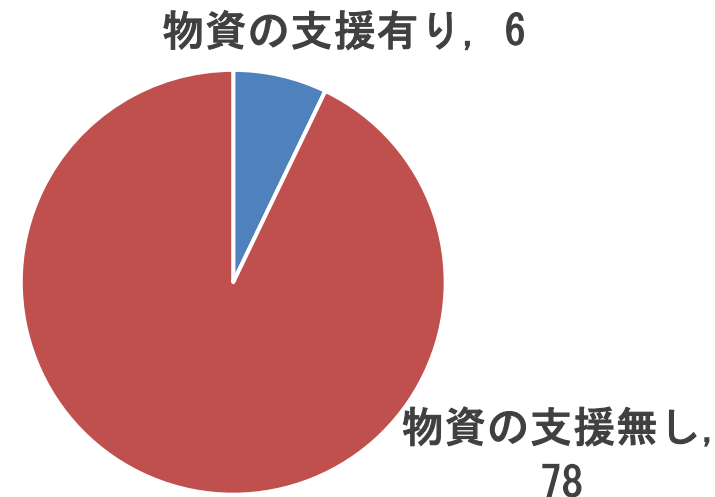
- ・ 処理量増（シフト変更有、休日出勤）
- ・ 処理量増約20%増量（シフト変更なし）

本社、他事業所からの支援



人の支援有の4事業所の支援内容

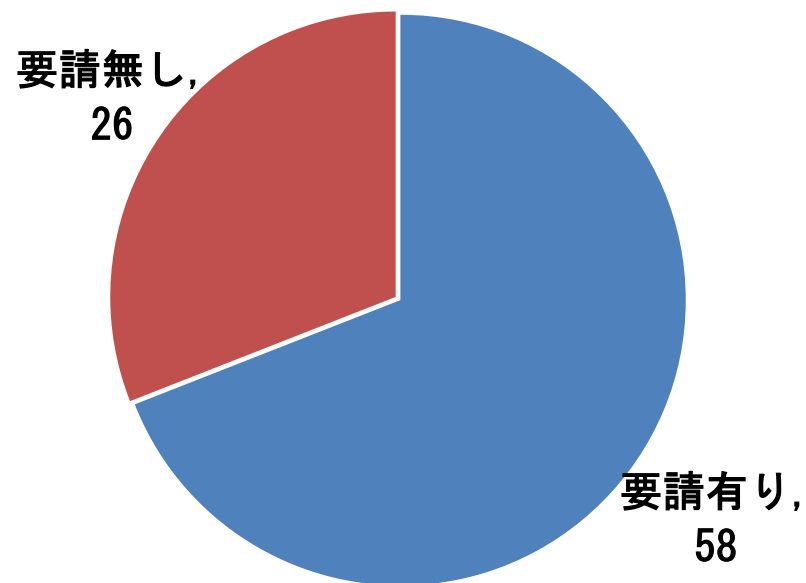
- ・ ごみ受入対応 1人×2日
- ・ 運転対応 3～4人×4ヶ月
- ・ 災害ごみ処理運転対応 2人×2日
- ・ ごみ受入、施設復旧対応
2人×3日、3人×15日



物資の支援有の6事業所の支援内容

- ・ 食糧、協力会社・協力会社員の車
- ・ 発電機、水、カップヌードル
- ・ 車両リース手配
- ・ 食糧
- ・ ガソリン（同一県内他事業所より支援）、食糧
- ・ 本社より通信機器
(Wi-Fiルーター・固定電話代用携帯電話)

客先からの協力要請



災害由来のごみ受入れ 52施設 (71施設中)

災害由来のし尿・汚泥の受け入れ 3施設 (13施設中)

避難住民への対応 0施設

休日等受入れ対応 1施設

その他 9施設 (災害由来のごみ受入れ要請に加えて)

- ・ 台風15号からの台風19号での被害拡大状況の見定め、飛来時の対応
- ・ 災害由来廃棄物の運搬
- ・ 仮置き場からピットへの移送、破碎処理
- ・ 24時間連続運転 (16時間運転から)
- ・ 土嚢による浸水対策、破損した扉の仮処置
- ・ 夜間施設や周辺の状況確認
- ・ 災害由来の廃棄物の処理 (片づけ)
- ・ 災害ごみの受入れに伴う業務の拡張
- ・ 工場搬入経路復旧応援 (倒木撤去)

平時の備えの評価（１）

不足していた事項

1. 会社の連絡体制
2. 『水分の多いごみ』の燃やし方教育
3. 緊急対応訓練
4. 安否連絡体制
5. 水中ポンプ、土嚢が足りなかった
6. 寝具類、食料など
7. 欠勤時の対応
8. 水、非常食
9. ガソリンや携帯バッテリー
10. 備蓄品※特に食料
11. 飲食類・発電機・情報源

平時の備えの評価（２）

再検討すべき事項

1. 会社の応援
2. 客先との緊急連絡体制
3. 災害ごみ搬入方法
4. 緊急時マニュアル
5. 発電機を備えるようにした
6. 非常対応用具、機器の見直し
7. ライフラインが寸断された際の備えについて
8. 非常食の必要数
9. 非常時の対応を組合と協議
10. 非常時用にガソリンや携帯バッテリーを確保（ガソリンは非常時のみ確保する）
11. 保存食増を再検討
12. 強風対策の再考

あって助かったこと（１）

1. 所員の協力
2. 自立運転
3. 周辺が水没しても、当該施設に被害なし。（高台に配置されていること）
4. 非常食
5. 災害用保存水・食糧セット
6. 10t深箱ダンプ１台、ショベルローダ２台
7. 車両系建設機械の資格受講者を準備計画していたので、災害ごみ処理に対応できた。
8. 備蓄品は備えてあったので食料は困らなかった
9. ヘッドライト、高機能レインウェア、固縛用ロープ
10. 従業員連絡先一覧
11. 防寒着
12. 敷地が広く、災害ごみを外置きできたこと。
13. 大型車両（自衛隊車両）が通れるスペースが確保できていること。
14. 屋外にトイレがあること。
15. 非常食。プラットホームが２階で自家用車の水没の心配が無かった。

あって助かったこと（２）

16. 敷地内に空地があった事

17. LEDライト、発電機

18. 災害ごみ仮置き場

19. 小型発電機

20. 携帯電話、安否確認ツール

21. ミネラルウォーター

22. 衛星電話

23. 破碎機、最終処分場

24. 小型重機・チェンソー・丸ノコ

25. モバイルバッテリーなどの充電機

26. 緊急搬入道路

26. 重機類（ホイルローダ）

27. ヘルメット用ヘッドライト

28. 携帯型非常用発電機

29. 非常時用充電器

30. 氷

なくて困ったこと（１）

1. 直接搬入の畳、粗大物の置場
2. 応援
3. 『水分の多いごみ』の燃やし方
4. パレットなど
5. ハザードマップ
6. 仮設災害ごみ置き場からのごみの移動を客先より依頼されるが、
ホイールローダーの車両運転資格者が少ないため、対応に苦慮した。
7. 増員なしでの対応は、職員を疲弊させている。
8. 生活水・外灯
9. 電気、水が5日間も途絶えると焼却処理施設が稼働できず不衛生
10. 浸水汲上用の水中ポンプ、エンジンポンプ、土嚢が足らなかった
11. 容量の大きい水中ポンプ
12. 欠員時の補充人員
13. 明確なルールがない
14. 水、食べ物

なくて困ったこと（２）

15. 台風15号時は、停電の為、気温も高く、エアコンが必須

16. 携帯用バッテリー、ガソリン

17. 食料

18. 災害ごみ进行处理する際の機械・道具

19. 重機の免許

20. 人員、余裕。

21. 作業用電源

22. 土嚢など用意が出来ていなかった

23. ブルーシート 畳養生用

24. 生活用水の断水による飲み水等

25. 雨合羽

26. ライフライン

27. 電気、ガソリン、食料

言っておきたいこと（１）

1. 災害（水害）発生を見込んで12日18：30～立ち下げ開始、21：00完了、翌朝 特に水害の影響なく 6時に再立ち上げをした。その間、客先の所長、係長が現場にきて頂いたので一人で悩まなく相談できて助かった。
2. 重機による作業が過多になる為、資格者の確保が必要となる。
3. 計画的な緊急訓練とBCPの周知（所員）が必要と考える。
4. 通常ごみ受入業務外で災害ごみを受入れするのは、通常人員では足りない。
5. 緊急時マニュアルはあったが後手になった部分があるので今後に生かしたい。
6. 屋外機器は、水位想定高さよりも嵩上げしておいた方が絶対に良い
7. ごみ焼却施設が稼働不可の場合に、近接のごみ焼却施設での可燃ごみ受入対応の明確化が必要。
8. 浸水の恐れがある場合は事前に水中ポンプを準備すべき。
9. 災害が予想されるのであれば躊躇せず早めの安全対策、対応を心掛ける。
10. 屋外作業用の合羽、保護具、長靴、プッシャーなどの用品が不足していた。
11. 災害ごみ発生時に、ごみを受入れ及び仮置きできるようピットや敷地に余裕を持たせて欲しい。

言っておきたいこと（2）

12. 分別されて搬入される予定であったが不適物が多数混入し、トラブルが発生した。分別の徹底をお願いしたい。
13. 初動から罹災証明を取るようにすれば、便乗ごみを減らせた。半分は便乗ごみと思われる。
14. 非発では、ごみクレーンが動かず。非発でもごみクレーン運転が可能にして欲しい。
15. 台風15号での教訓を生かして、台風19号の接近前に万全の対応をすることが出来た。特に、食料の調達や携帯用バッテリー、ガソリン等を事前準備したことと、安否確認システムでの連絡体制により事前に出勤者の把握等が出来たので、天災によるストレスは軽減できた。今後は、地震に限らず台風や病気でのBCP対応としての整備を行っていく。関東近郊は多少の天災でもライフラインが麻痺したり、食料調達にしても過剰に反応して買い占めが起こるので、その点を分析しておいたほうが良い。ライフラインが麻痺する事を前提に、社用車もワンボックスで送り迎えができるとなお良い。今回は自立運転で難を逃れたが、今後は客先と事前協議（対策会議）を行い、安全ベースで事前に炉を停止するか否かを客先主導のもと、協議するようになる。

言っておきたいこと（3）

16. 安否確認システム運用の再検討。状況によっては本社・他所等の協力が不可欠である。
17. 災害ごみは一般廃棄物として受けなければならない、罹災証明書を盾に災害ごみとして疑わしい物が搬入される。
18. 処理経費の増加分を受託費に追加してもらっているが、目に見えない労力も多く加味してもらいたい。
19. 大きな被害はなかったが顧客と災害時の訓練をしていきたい。
20. 大きな災害が予測されるときは事前事後の現場対応とし、危険予測時間帯は安全な場所への避難（出勤前なら自宅等待機）が良いと思う
21. 非常用の備蓄を用意しておいた方がいい。ポータブル発電機が欲しい。

その他・自由記入（１）

1. 再資源化施設に関しては台風19号接近に伴い、市より早上がりの指示有り。午前中に作業を停止。
2. 災害対応用具の整備が必要。
3. 他地区災害ごみ処理で、焼却時排ガス数値の異常上昇・分別の悪さ（長物、鉄物の大量混入）等が原因により、コンベア関係のトラブルが起きた。
4. 台風15号に関して、恐怖を覚えるほどの雨と風ではあったが、施設に関しては全炉停止（工事）期間中であつた為に影響はなかった。従業員に関してもスムーズに状況安否確認ができ日頃の連絡訓練の成果がでていたと感じた。年々、自然災害の規模が大きくなってきている。色々なケースを想定した訓練実施を視野に入れて行きたい。
5. 台風19号による被害稲藁を受入て焼却処理したが、水田の被害稲藁は、当初は重機で水田表層ごと回収した物もあり泥が多く付着しており自燃ができず、助燃バーナを使用する事も有った。通常ごみとの混合比も試行錯誤して、かなり苦労した。被害稲藁の処理計画は、当初は構成市町分を当焼却施設で大半を焼却処理する予定であつたが、現在は県内の堆肥化施設で処理する方針に変更となり、フレコンで当敷地内にある仮置き分は堆肥化施設に搬出。

その他・自由記入（２）

6. 搬入時の災害ごみが分別されておらず、可燃ごみの中に不燃ごみが混入されているケースが目立った。
7. 従業員の中には、繁忙手当が欲しいという声もあった。
8. 豪雨よる災害ごみがどこにどのくらい仮置きしているか自治体が判断がつかない状態であった。自治体の素早い対応をお願いしたい。この後、災害ごみの処理について新たな契約の締結があった。
9. 近くの川が氾濫し、周辺地域が浸水したが、市内には2つ処理場があり、分担して災害ごみを受け入れた。
10. 台風19号時は、津波の心配あり非常用発電機室及びそれに付随する水没予測箇所に土嚢対策実施。災害の種類（水害、強風）により対策が変わる。
11. 災害ごみを焼却した場合の特徴として、ごみの分別が通常のごみより悪いため、ごみの中の鉄の割合が多くなり、粗破砕機や給じん系のコンベヤ、砂循環系でのトラブルが増加している。また、塩化水素濃度と硫黄酸化物濃度が上昇することで、消石灰の使用量が増加した。

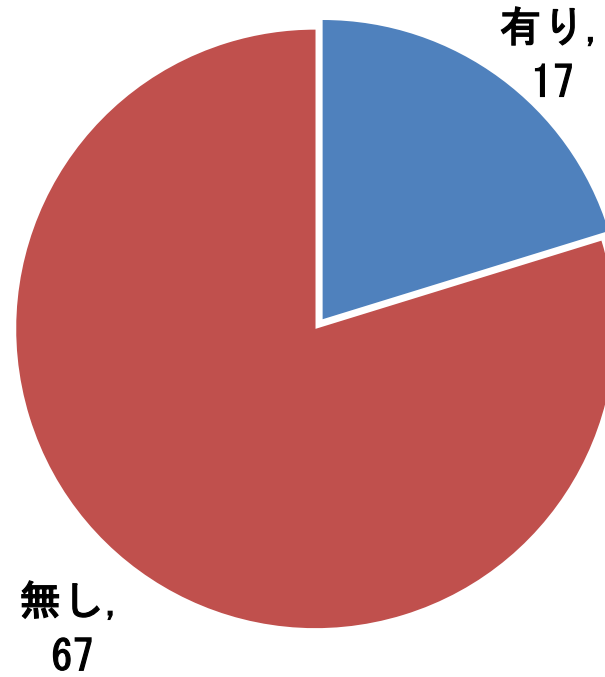
その他・自由記入（３）

12. 数年に一度の台風であり、想定外の雨量での水害であったが、工場は全く問題なかった。設計思想が安全に対して有効であるという事が証明されたのではないかと考える。また、今回以上の水害があった場合のことも、SPCと客先に相談でき、その過程での制御盤移設工事を実施する事になった。辛い経験ではあったが、すべてが悪いわけではなく、次につながる良い経験になった。
13. 災害発生時の災害ごみ搬入基準の明確化が無かったため、規格外のごみが搬入された。被災ごみ以外も搬入された。罹災証明等での確認が必要と感じた。焼却に影響を及ぼすごみが有ったので、一時仮置き場等があれば良かった。（ごみピットが小さい為）
14. 当自治体では、水害による被災が非常に少なく水害ごみも個人搬入される程度であり、被災は軽微であったため、自治体内からの被災ごみの受入は微量であった。他自治体の水害ごみの受け入れ要請が県から有り、市で検討されたうえ水害ごみの受け入れを実施された。当施設の処理能力の範囲内の受入が行われ、受入ごみについても、直接ピット投入が出来る様に破碎処理実施後の持ち込み条件で受け入れられた。

その他・自由記入（４）

15. 災害ごみの受け入れは問題なかったが、ごみ質のカロリーが高くなり、災害ごみの攪拌に時間がとられた。
16. 近所の企業では業務終了判断の遅れか、帰宅途中の通勤経路上で氾濫した河川に流され亡くなられた方がいた。また、役所の方で浄水施設（河川敷）を点検している間に河川氾濫が発生し現場に取り残される事例もありました。施設の管理は我々にとって大変重要ですが、自然災害発生時に命を守る行動がとれるルールをつくり徹底する必要があると考える。
17. 市からの要求水準書に停電時の対応として携帯型発電機と燃料の手配を行うとの記載があり、客先より微生物保護の為導入しないのかと問われたが、400Vのブロワを何台も動かせるような発電機は現実的ではないので導入しなかったが何度も問われた。その為今後非常用発電機の導入も検討事項かと思う。停電復旧後早期に立ち上げて欲しいとの事だったので勤務時間変更し対応したがそこまでやらなければいけなかったのか疑問。それと災害時携帯電話の基地局も停電被害にあっていたので本社との連絡も現場で出来ず電波が届く所まで行き連絡しなければいけなかったのが不便であった。（最終処分場）

災害廃棄物対応の協定



災害廃棄物対応の協定

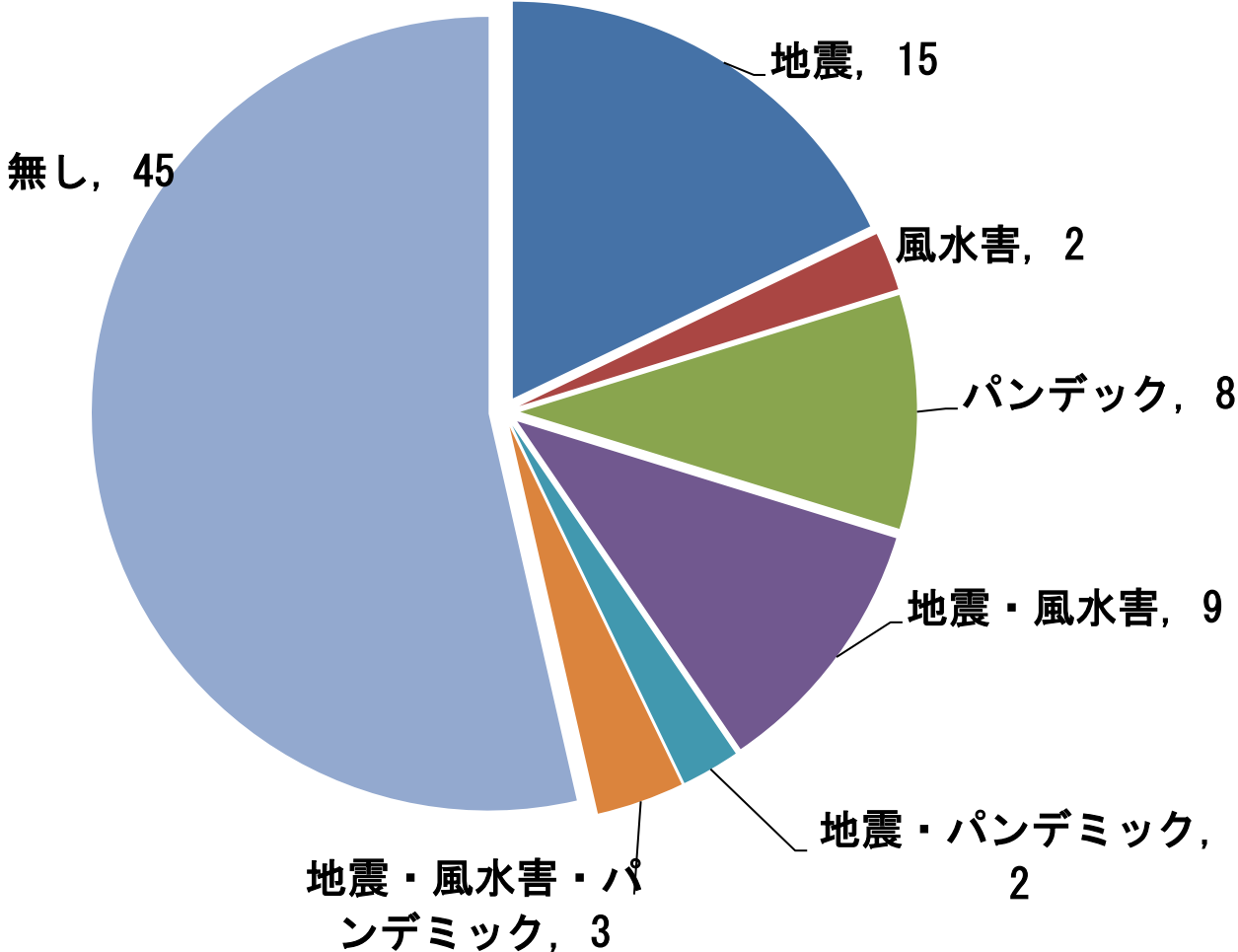
- ・ 自治体間協定は13件

「災害時における相互応援」、「一時仮置き場、避難先等」、「災害廃棄物等の処理に関する相互支援」

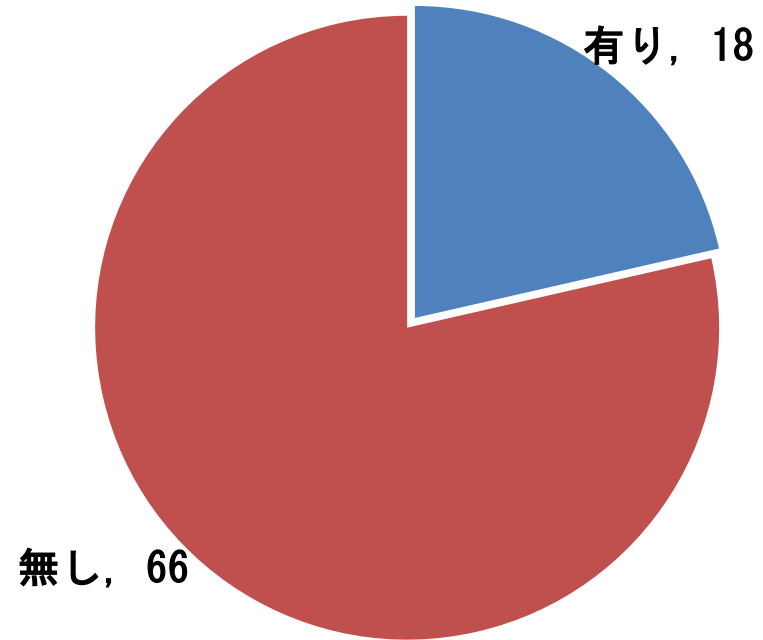
- ・ 自治体とSPCとの協定は4件（14DB0事業所中）

協定内容は それぞれ「組合協議にて、可能な範囲で受入」、「災害ごみについては協力すること」、「4.6t/日受入」となっている

BCPの作成状況



災害廃棄物処理計画の策定



アンケートでは災害廃棄物処理計画を策定しているのは18施設であったが、回答以外の自治体においても災害廃棄物処理計画を策定しているものと考えられる。